

## 実践『ペルソナ』通信 (No. 99)

### 「エコバッグ」に関する調査

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、女子大学生の「エコバッグ」についてアンケート調査を実施しました。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計学科（担当：竹内光悦）」のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を研究する研究会です。

#### はじめに

2020年7月より始まったレジ袋の有料化に伴い、「エコバッグ」の存在が注目されるようになりました。新型コロナウイルスの影響で新しい生活様式になりつつありますが、生活のためのスーパー等の利用は今後も変わらずに不可欠のため、エコバッグについての意識に変化が起きたのではないかと考えられます。そこで今回の調査では、イマドキの女子大生の「エコバッグ」について調べていきます。

#### 総括

今回の調査を通して、実践女子大学生のエコバッグの利用率は高く、エコバッグを自分で購入した人と自分以外からもらった人もいて、自分で購入の場合、購入時の決め手としては、小さく折りたためるかどうかやデザイン性、大きさ（容量）が重視されていることがわかりました。また、エコバッグを利用し始めたタイミングは、環境問題への意識の有無に関係なく有料化が開始されてからの人が多い傾向にありました。

#### Topics

- (1) エコバッグの利用経験は90%、保有個数は1個か2個
- (2) エコバッグ購入の決め手はいかにコンパクトに持ち運べるか
- (3) エコバッグは使い分けされていない人が80%
- (4) 居住形態別エコバッグの利用頻度は「たまに持ち歩く」が過半数
- (5) エコバッグ利用時の悩みがある人は12%
- (6) エコバッグを所持しない人は機能性とデザイン性の向上を求めている
- (7) エコバッグ利用のきっかけは有料化

#### 調査担当者

実践『ペルソナ』研究会 金森彩、立石朋子、原知奈美、松浦彩里

## 調査概要

- 調査対象：実践女子大生 1～4 年生
- 調査方法：Google フォームによるインターネット調査
- 調査期間：2020 年 10 月 23 日（金）～10 月 30 日（金）
- 有効回答者数：124 名
- 回答者の属性：1 年生（16.1%）、2 年生（12.1%）、3 年生（66.9%）、4 年生（4.8%）

## 調査結果

### (1) エコバッグの利用経験は 90%、保有個数は 1 個か 2 個

実践女子大学に通う学生にエコバッグの利用経験を調査したところ 90%は、これまでにエコバッグを利用したことがあると回答し、10%の学生は利用したことがない結果となりました（図 1）。エコバッグを利用したことがあると回答した人に、エコバッグの保有個数について調査したところ、「1 個」と回答した割合が全体の 44.6%、「2 個」と回答した割合が 38.4%でした。「4 個」と回答割合は 0.9%だったのに対して、「5 個以上」と回答した割合は 4.5%という結果になりました（図 2）。

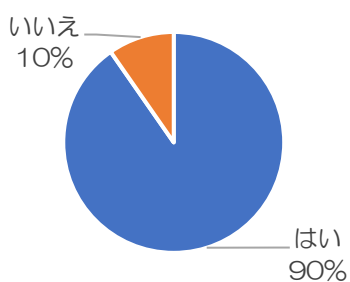


図 1. エコバッグの利用の有無  
(n=124)

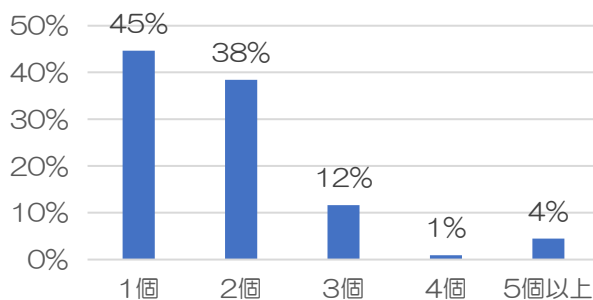


図 2. エコバッグの保有個数  
(n=112)

### (2) エコバッグ購入の決め手はいかにコンパクトに持ち運べるか

エコバッグをどのようにして手に入れたか調査したところ、「自分で購入した」と回答した人が 55%、「自分以外の人からもらった（プレゼントを含む）」と回答した人が 45%という結果になりました（図 3）。

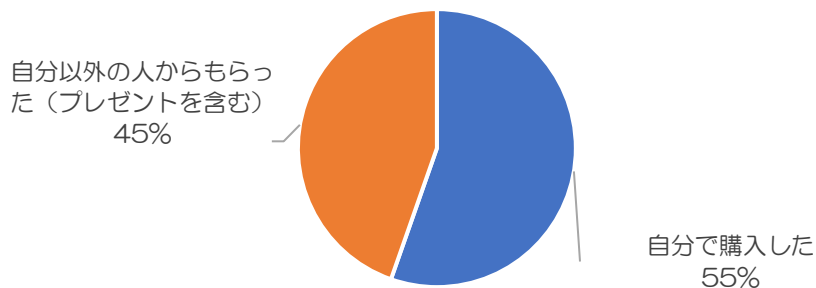


図 3. エコバッグの入手手段 (n=112)

自分でエコバックを購入したと回答した人に最も利用するエコバックをどこで購入したか調査したところ、「雑貨屋」が32%と最も高く、続いて「スーパー」と「好きなブランドの店舗」が15%と同率という結果になりました（図4）。近年、インターネットの普及により通販の需要が高まっている中で、回答率が高いのは実店舗であるということがわかりました。実店舗は実物を見ることができるといったメリットが影響しているのではないかと考えられます。また、実店舗の中でも「スーパー」は買い物ついでにエコバックを購入できるため、回答率が高い結果であったのではないかと考えられます。

自分でエコバックを購入したと回答した人に最も利用するエコバックを購入しようと思った決め手について調査したところ、「小さく折りたためるか」が35%と最も高く、続いて「デザイン性」と「大きさ（容量）」が25%と同率の結果になりました（図5）。レジ袋が有料化となりエコバックを持ち運ぶ機会が増えた中で、エコバックをいかにコンパクトに持ち運べるのかを重視している傾向があるということがわかりました。また、「デザイン性」の回答率も高いことから、ファッションの一部としてエコバックのデザインを重視しているのではないかと考えられます。

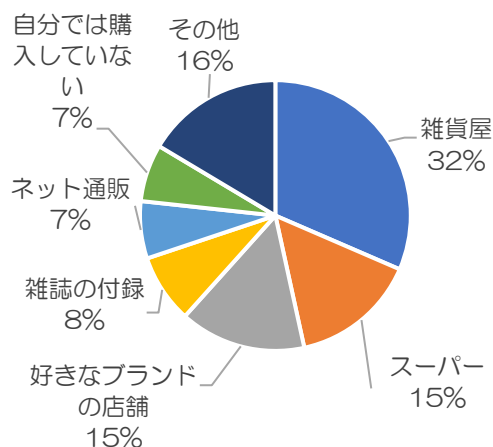


図4. エコバックの購入場所  
(n=73)

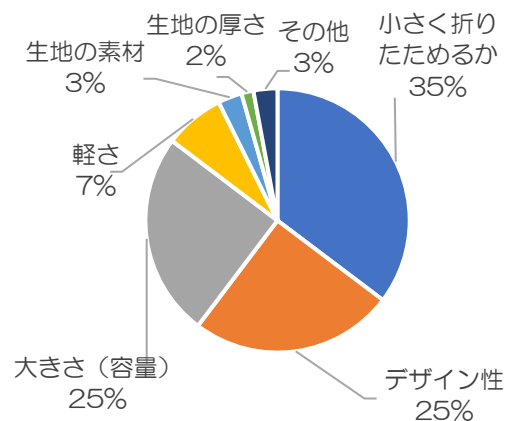


図5. エコバックを購入する決め手  
(n=68)

### (3) エコバックは使い分けされていない人が80%

エコバックを用途に合わせて使い分けるかを調査したところ、「使い分けしている」と回答した人が21%、「使い分けしていない」と回答した人が79%と、約8割が使い分けず同じエコバックを使っている人が多いことがわかりました（図6）。また、「使い分けしている」と回答した人に使い分けしている理由を回答してもらったところ、「買う物の目的によって」と回答した人が21人と最も多く、次いで「衛生面に気をつけているから」と回答した人が4人、「ファッションに合わせて」と回答した人が3人という結果になりました（図7）。図2の保有個数からわかるようにエコバックを保有している個数が少ないため、用途が変わってもエコバックを使い分けることは難しい状況にあり、使い分ける人が少ないのではないかと考えられます。

エコバックの洗濯頻度について調査したところ「洗っていない」と回答した人が50%と

最も多く、次いで「たまに洗う」と回答した人が31%、「除菌スプレーのみ」と回答した人が19%という結果になりました（図8）。このことからエコバッグの清潔さについては特に意識していない人が多いことがわかりました。エコバッグを所持することが一般的となったのがまだ最近であるため、あまりエコバッグの衛生面については意識する人が少ないのではないかと考えられます。

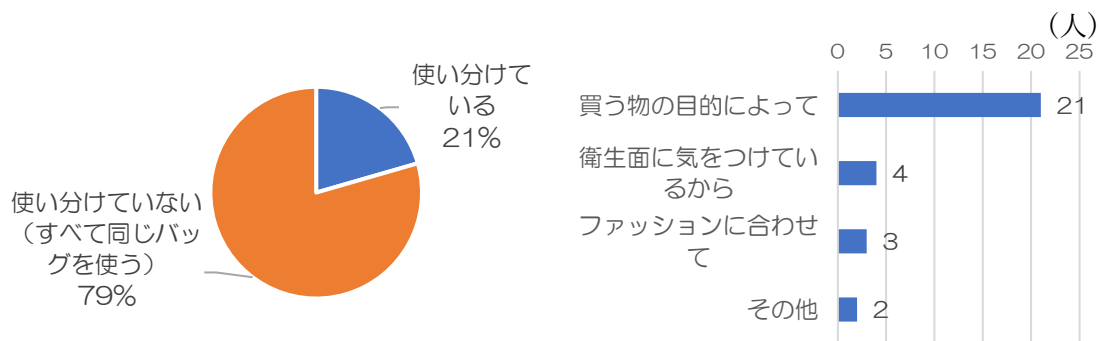


図6. エコバッグの使い分け (n=112)

図7. エコバッグ使い分けの理由 (n=30)

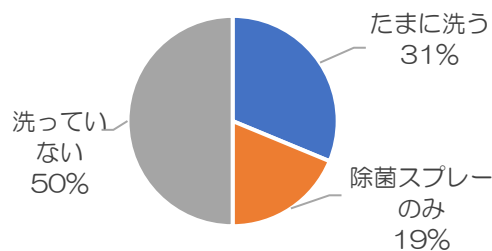


図8. エコバッグの洗濯頻度 (n=112)

#### (4) 居住形態別エコバッグの利用頻度は「たまに持ち歩く」が過半数

エコバッグをどのくらいの頻度で持ち歩いているのかについて、居住形態別に集計したところ、一人暮らし（寮を含む）と実家暮らしの両方で「たまに持ち歩く」という回答が全体の割合の約50%を占める結果でした。「必ず持ち歩く」と回答した割合は、一人暮らし（寮を含む）が22.7%、実家暮らしが31.5%と予想と反する結果となりました（図9）。

さらに、「たまに持ち歩く」また「あまり持ち歩かない」と回答した人に、持ち歩かないときはどんなときか回答してもらったところ、「買い物をする予定がないとき」と回答した割合が一人暮らし（寮を含む）が50%、実家暮らしが44.3%と両方で一番多い結果でした。次に多い回答が得られたのは「友人と出かけているとき」で、一人暮らし（寮を含む）が43.8%、実家暮らしが23%となっており、一人暮らしをしている人の方が友人との出かけにはエコバッグを持参していないことがわかりました（図10）。

エコバッグをどのような場面に持って行くか複数回答してもらくと、「スーパー」が最も多い41.1%という結果でした。スーパーへ行く目的は買い物であるためだと考えられます（図11）。

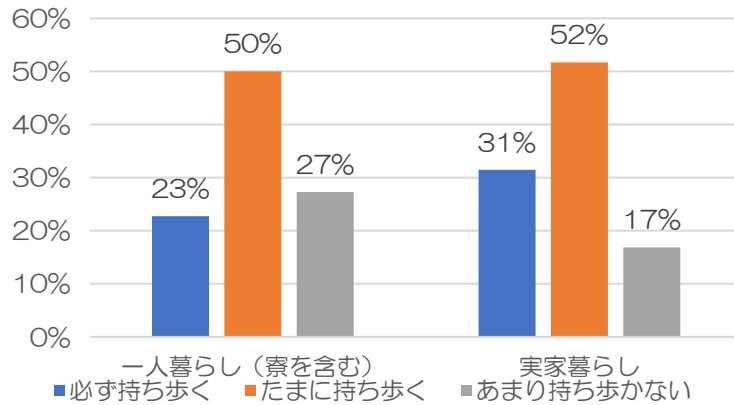


図 9. エコバッグを持ち歩く頻度 (n=111)  
一人暮らし 22 人 実家暮らし 89 人

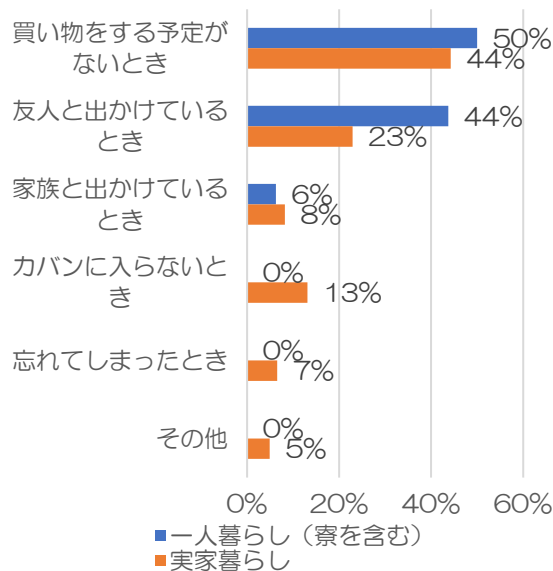


図 10. エコバッグを持ち歩く頻度 (n=77)

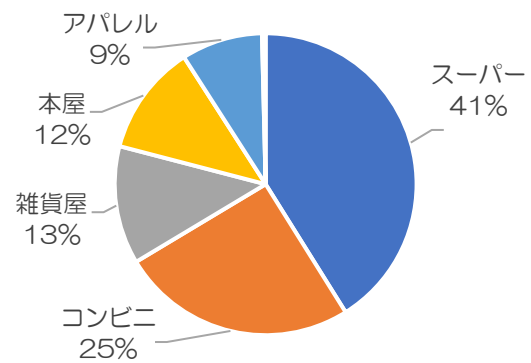


図 11. エコバッグを利用する場面 (n=253)

(5)エコバッグ利用時の悩みがある人は 12%

エコバッグを利用する際に困った経験はあるか調査したところ、「はい」と回答した人が 13%、「いいえ」と回答した人が 87%という結果となりました (図 12)。

「はい」と回答した人に、悩みの詳細を聞いたところ、「エコバッグに荷物が入りきらない」、「持ち歩くときにかさばる」、「マチがなくて食べ物が入れづらい」などのエコバッグ自体に対する悩みと、「コンビニでは詰める場所がない」、「自分で商品を入れると時間がかかる」、「清算後に商品をしまうスペースがなく混雑している」などのエコバッグを使用する場所での悩みの 2 種類があることがわかりました。

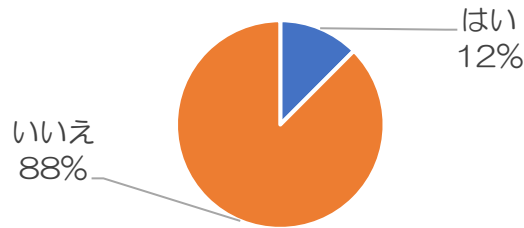


図 12. エコバッグ利用時の困った経験、悩みの有無 (n=112)

#### (6) エコバッグを所持しない人は機能性とデザイン性の向上を求めている

エコバッグを所持しないと回答した人に、その理由について調査したところ、「エコバッグに変わるものを利用している」と回答した人のように、エコバッグではなくてもレジ袋は利用していない人に対し、「レジ袋を買えば済むから」と有料化されても特に意識していない人もいたことがわかりました(図 13)。「レジ袋を買えば済むから」と回答した 5 人にレジ袋がいくらだったらエコバッグの利用を考えると質問したところ、「5~10 円」が 2 人、「11~20 円」が 3 人という結果になりました。このことから、現在のレジ袋の金額は 3 円から 7 円など、サイズやお店によってまばらではありますが、あと数円値段が高くなるとレジ袋の利用率が変化する可能性があると考えられます。

また、どのようなエコバッグであれば使用したいかを自由回答調査したところ、「コンパクトになるもの」や「好みのブランド・デザイン」と回答したものが多く、「服に合うもの」、「形のしっかりしたもの」などの回答も見受けられました。形の大きさや素材など機能性を求める意見と、デザイン性や服に合わせてなど、ファッションとしての位置を求める意見があり、エコバッグの種類の多様化が、購買意欲を向上させるきっかけになると思います。

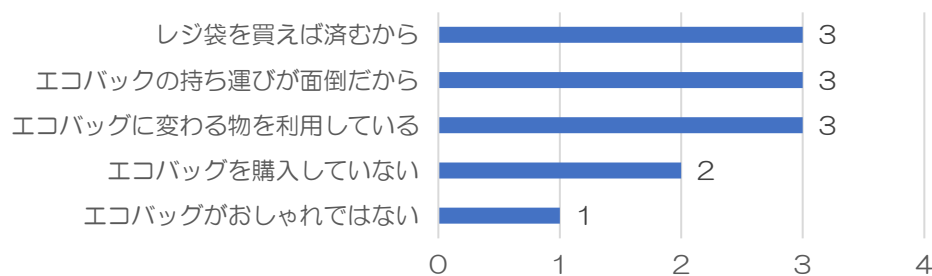


図 13. エコバッグを所持しない理由 (n=12)

#### (7) エコバッグ利用のきっかけは有料化

環境問題について意識しているかについて調査したところ、「はい」と回答した人が 54%、「いいえ」と回答した人が 46%という結果となりました(図 14)。

環境問題への意識別にエコバッグ利用の有無について調査したところ、エコバッグ利用の有無に関わらず環境問題について意識している人がわずかですが多いことがわかりました。(図 15)。また、エコバッグを持ち始めたきっかけについても調査したところ、環境問題への意識の有無を問わず「レジ袋有料化開始後」と答えた人が多く、レジ袋有料化以前に

もエコバッグを使用していた人が一定数いることがわかります（図 16）。このことからエコバッグ利用の有無は環境問題への意識からによるものではなく、レジ袋有料化によってエコバッグの所持や理由に繋がった人が多いのではないかと考えます。

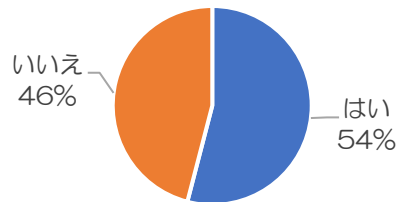


図 14. 環境問題への意識の有無 (n=124)

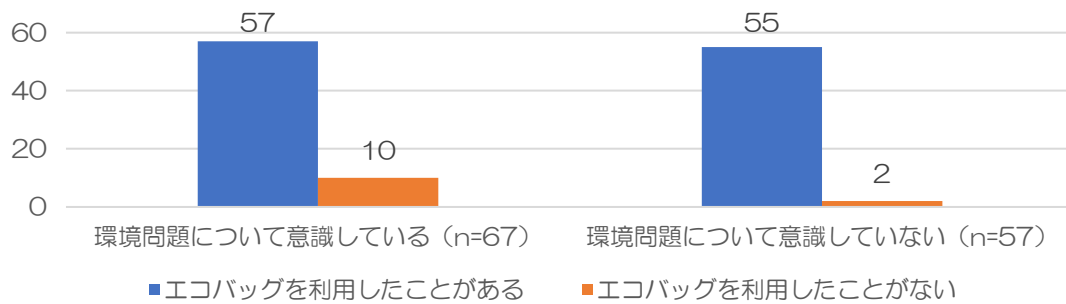


図 15. 環境問題への意識別エコバッグの利用有無 (n=124)

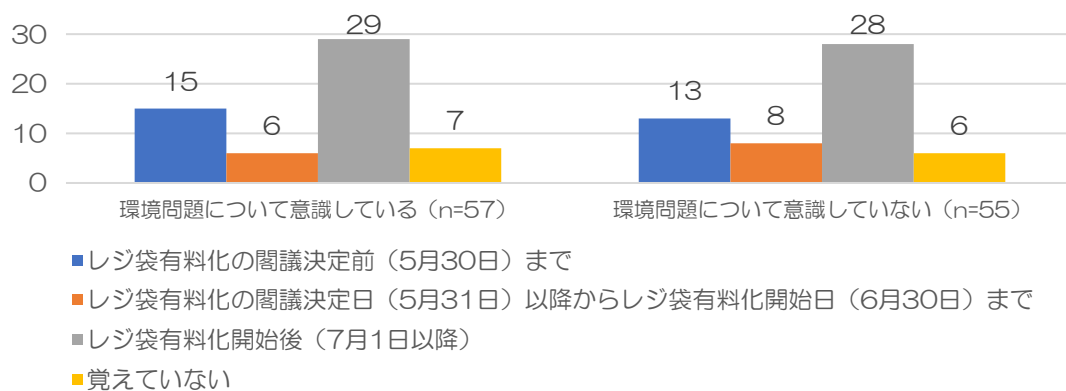


図 16. 環境問題への意識別エコバッグの利用開始時 (n=112)

## 考察

今回の調査から、実践女子大生はエコバッグの利用率が90%と高く、利用している人は大半の人がエコバッグを1個や2個所持していることがわかりました。

エコバッグ購入の手段としては、「自分で購入した」、「自分以外の人からもらった（プレゼント含む）」ともに約半数となり、「自分で購入した」と回答した人の中では「雑貨屋さん」で購入した人が3割いました。また、購入の決め手ではコンパクトさやデザイン性、容量が重要視されており、デザイン性にこだわって自ら購入している割合が高いという仮説は立証されませんでした。エコバッグの利用が定着し始めてはいるものの、エコバッグの多様化は進み切れていないと考察することができます。

エコバッグの使い分けに関しては、使い分けていない人が約8割を占め、洗濯頻度に関しては半数の人が洗っていないことがわかりました。この結果は、エコバッグは普及し始めたばかりであるため、エコバッグに対するこだわりが少ないと考えられます。

居住形態別の利用頻度は、「一人暮らし」より「実家暮らし」の方が持ち歩く頻度は高く、自炊をする機会の多い「一人暮らし」の方が持ち歩くという仮説は立証されませんでした。家族と住む「実家暮らし」は親が利用していることで意識することもあります。が、「一人暮らし」の人は自分しかいないため、エコバッグへの意識が低いと持ち歩く意識も低いと考察することができます。

エコバッグ利用時には、エコバッグ自体に対するものと使用する場所に対する二種類の悩みがあることがわかりました。また、利用経験がない人の意見として、デザインや機能性の充実を求める声があり、エコバッグの種類の多様化とともに店舗で荷物を積める空間の充実が利用率の増加に繋がると考えられます。

環境問題への意識に関して、意識の有無は半分ほどに分かれ、意識別ではエコバッグ利用の有無に差はなく、エコバッグを持ち始めたきっかけも意識の有無にかかわらず、レジ袋の有料化が最も多いきっかけであることがわかりました。プラスチック製品が環境にもたらす問題ではなく、有料化がエコバッグの利用に繋がったと考察できます。

以上の結果から、実践女子大生の多くはエコバッグを利用し、居住形態や環境問題への意識の有無にかかわらず、レジ袋の有料化がエコバッグをもつ大きな理由であることが判明しました。また、デザイン性や機能性、コンパクトさをより充実させた商品の普及が更なる使用率の増加に繋がると予想されます。

今回の調査では、エコバッグの所持の有無に関わらずコンパクトさや大きさなどの機能性、デザインを重要視するという声が多く挙げられました。そのため、Be面の写真観察では実際にエコバッグを持った状態と折りたたんだ状態のエコバッグの写真から、実践女子大生が持つエコバッグの具体的な傾向を見つけたいと考えています。